

ツリフネソウ、キツリフネ、ヤマキケマン、アカバナ、フシグロセンノウ、ミノガワソウ、ミズタマソウ、モミジガサ、ヤマトリカブト、キオン、ハンシヨウヅル、イワシモツケ、イタドリ、エゾノギシギシ、ヤグルマソウ、コキンレイカ、ノリクラアザミ、ヤマブキシヨウマ、メタカラコウ、ヤマホトトギス、クロクモソウ、カニコウモリ、クリンユキフデ、クジャクシダ、ヤナギラン、などが見られた。10年以上前に廃車道となり、ほとんど人も通らない荒道で、しかも標高1300 mの地点に、帰化植物ムシトリナデシコが数本みられたことなども興味を引いた。

標高1700 mあたりで、沢すじから離れ、いよいよ経ヶ岳北斜面の登りとなった。ツバメオモト、クルマユリ、コバイケイソウ、テガタチドリ、マルバダケブキなどが見られた。標高1750 mのコメツガ林で、タカネソヨゴという珍品も見つかる。

横内文人先生によると、1951年林氏により仙丈岳1900 mで発見され、奥原（木曾、真弓峠）、横内斎

（中房）の報告があり、今回4回目ということである。近くには、アカミノイヌツゲ、ハクサンシャクナゲ、ミヤマシグレ、ホソバツルツゲ、コケシノブ、イワカガミ、ナナカマド、サラサドウダン、ヒメコマツなどが見られた。このあたりからは、シナノザサが一面に密生し、踏跡もすっかり消えてしまい、一時は経ヶ岳頂上まではとても無理かと危ぶまれたが、セリバシオガマ、オサバグサなど珍しい植物に励まされ、ようやく経ヶ岳の頂上（2296 m）に立つことができた。頂上付近は、まだ樹林帯を抜けぬものの、強風のため丈の低い、オオシラビソ、シラビソ、トウヒ、ナナカマドなどの低木林となっていた。開空地には、ヤマドリゼンマイ、ゴゼンタチバナ、シナノキイチゴ、ヒメスゲなどが見られた。伊那側は一面伐採され、眼下の伊那谷から権兵衛峠、木曾駒連山が一望され、登りの苦しさを忘れるに充分であった。

〔秋季例会合宿調査報告〕

八坂村・野平の植物採集

八 幡 泰 平

今年度最後の例会は、昭和57年10月23・24日両日、秋の気配も深まった北安曇郡八坂村を中心とした山麓部で植物採集会としておこなわれた。

参加者は、当日参加の方を含めて、奥原弘人、望月精一、古谷義人、和田 清、渡辺隆一、渡辺富子、渡辺森太郎、中沢装装延の諸氏と幹事八幡の総勢9名であった。

第1日。宿泊場所は八坂村で経営する「明日香荘」であった。八坂村の中でも比較的空の広い斜面にあるわかり易い場所であった。採集会としては時期的にや、遅かったので宿泊者は幹事を含めて8名で淋しかったが、午前中から八坂の相川や唐花見の観察をされた奥原先生や、望月・古谷・和田・渡辺先生の植物のお話があり勉強不足気味の幹事にとって大変有意義な機会であった。

第2日。宿舍のマイクロバスで、一気に山清路へ出て、野平の地志原で下車、あとは急な坂道を歩く。山清路手前の路上でヨコグラーノキを教えてください。

ヤクシソウ、イヌガンソク、オウレンシダ、イワガネゼンマイ、ケキブシ、トラノオシダ、イワシロイノデ、サカゲイノデ、アブラススキ、オオアブラススキ、エドヒガンザクラ、オニタヤ、アカイタヤ、クマノミズキ、オオウメモドキ、ミヤマシケンシダ、サイハイラン、ヤマキツネノボタン、ウシハコベ、タニウツギ、ニシノホンモンジスゲ、ドクダミメドハギ、オオモミジなど見られた。

昼近くなって天候が心配になったが、朝出発した明日香荘まで帰ることができた。明日香荘の駐車場での解散式の時に奥原先生から次のような宿題をいただいた。「タニウツギを少し見かけたが、八坂村か池田町、生坂村へ行くと見かけない。どこの地区が南限になっているかを花の咲く時期に確かめておいてほしい。」

交通の便の悪い所であったが、参加された方々はそれぞれに収穫があったのではないかと勝手に思いながら、同時に参加者に厚く感謝致します。

〔交換図書雑誌目録〕（68頁から続く）

ふるさとの植物（岐阜県植物館）1982

山口県のコケとシダ（山口県立山口博物館）1982

群馬の植物散歩（須藤志成幸）1982

日本植物探訪記その18、19（奥山春季）1982

キイレットトリモチとその人工増殖

（阿久沢栄太郎編）1982